

拡張された超幾何関数とそのモノドロミー保存変形

朴 佳南 (神戸大学)

Tsuda[3] は微分の場合に超幾何関数の拡張式を特殊解に持つモノドロミー保存変形を求めた. その q 類似を求めることが目標である. まず, q -超幾何関数 [1][2] の拡張式 $\mathcal{F}_{N,M}$ を定義する. その積分表示を用いて, それが満たすパフ系を求める. 次に, それを簡約化して得られる係数行列は, その作り方から両立条件を満たすので, それを参考にラックス形式をつくり, 目標のモノドロミー保存変形を得る.

1. q 超幾何関数の拡張 $\mathcal{F}_{N,M}$

q -超幾何級数の拡張式 $\mathcal{F}_{N,M}$ を, 次のように定義する

$$\mathcal{F}_{N,M}\left(\begin{matrix} \{a_j\}, \{b_i\} \\ \{c_j\} \end{matrix}; \{y_i\}\right) = \sum_{m_i=0}^{\infty} \prod_{j=1}^N \frac{(a_j)_{|m|}}{(c_j)_{|m|}} \prod_{i=1}^M \frac{(b_i)_{m_i}}{(q)_{m_i}} \prod_{i=1}^M y_i^{m_i}. \quad (1)$$

ここで, $|n| = \sum_{j=1}^N n_j$, $(a)_n = (1-a)(1-qa)\cdots(1-q^{n-1}a) = \frac{(a)_{\infty}}{(q^n a)_{\infty}}$. 積分表示は

$$\mathcal{F}_{N,M}\left(\begin{matrix} \{c_j\}, \{a_i\} \\ \{b_j c_j\} \end{matrix}; \{x_i\}\right) = \frac{(\{c_j\})_{\infty}}{(\{b_j c_j\})_{\infty}} \prod_{j=1}^N \frac{(b_j)_{\infty}}{(q)_{\infty}} \sum_{n_j} \prod_{i=1}^M \frac{(x_i a_i q^{|n|})_{\infty}}{(x_i q^{|n|})_{\infty}} \prod_{j=1}^N \frac{(q^{1+n_j})_{\infty}}{(b_j q^{n_j})_{\infty}} c_j^{n_j}. \quad (2)$$

2. $\mathcal{F}_{N,M-1}$ を特殊解に持つモノドロミー保存変形

$\mathcal{F}_{N,M-1}$ を特殊解に持つモノドロミー保存変形について述べる.

定義 2.1 行列 A, B を

$$A = DX_1^{-1} X_2 \cdots X_{2M-1}^{-1} X_{2M}, \quad (3)$$

$$B = X_{2M}^{-1} X_{2M-1}, \quad (4)$$

とする. ただし, D は対角行列, $X_i = \text{diag}[u_{i,1}, u_{i,2}, \dots, u_{i,N+1}] + \Lambda$ を表す. ここで Λ は

$$\Lambda = \begin{bmatrix} 1 & & \\ & \ddots & \\ & & 1 \\ z & & & \end{bmatrix} \quad (5)$$

を表す. このとき

$$B(qz, t) \cdot A(z, t) = A(z, qt) \cdot B(z, t), \quad (6)$$

によって定まる方程式を考える.

この方程式 (6) に対して, 次のことが成り立つ.

定理 2.1 (6) で定義されるモノドロミー保存変形は, $\mathcal{F}_{N,M-1}$ で表される解を持つ.

ここでは、証明の概要を述べる。 $\mathcal{F}_{N,M}$ の積分表示から得られる方程式の係数が、(3) のように表されることを示せばよい。まず、 $\mathcal{F}_{N,M}$ の積分表示からパフ系を求める。積分表示(2)における被積分関数を

$$\Phi(\{u_j\}_{j=1}^N) = \prod_{i=1}^M \frac{(a_i x_i u_N)_\infty}{(x_i u_N)_\infty} \prod_{j=1}^N \frac{(q u_j / u_{j-1})_\infty}{(b_j u_j / u_{j-1})_\infty} u_j^{\gamma_j - 1}, \quad (7)$$

とおくと

$$\Psi_0 = \langle \Phi p_0 \rangle, \quad \Psi_{j,i} = \langle \Phi p_{j,i} \rangle, \quad (1 \leq i \leq M, 1 \leq j \leq N) \quad (8)$$

がパフ系の解の基底を与える。ここで、 $\langle f(\{u_j\}) \rangle = \sum_{u_j \in q^{\mathbb{Z}}} f(u_j)$ を表し、 $p_0 = 1$, $p_{j,i} = \prod_{k=1}^{i-1} \frac{1-x_k u_N}{1-a_k x_k u_N} \cdot \frac{u_{j-1}-b_j u_j}{1-a_i x_i u_N}$ である。互換の積を $\rho = \sigma_M \cdots \sigma_1$ ($\sigma_i = \{x_i \leftrightarrow x_{i+1}, a_i \leftrightarrow a_{i+1}\}$) とおくと、 $\mathcal{F}_{N,M}$ のパフ系として次を得る

$$\begin{aligned} T_{x_M}(\Psi_0) &= * \rho(\Psi_0) + * \rho(\Psi_{1,1}) + * \rho(\Psi_{2,1}) + \cdots + * \rho(\Psi_{N,1}), \\ T_{x_M}(\Psi_{j,i}) &= \rho(\Psi_{j,i+1}) \quad (i \neq M), \\ T_{x_M}(\Psi_{j,M}) &= * \rho(\Psi_0) + * \rho(\Psi_{1,1}) + * \rho(\Psi_{2,1}) + \cdots + * \rho(\Psi_{N,1}). \end{aligned} \quad (9)$$

他変数に対する q シフトは、置換 σ_i を用いることによって求められる。 $*$ は x_M の有理関数を表す。これを $\vec{\Psi} = [\Psi_0, \dots, \Psi_{N,M}]$ とおいて次のように書き直す

$$T_{x_M} \vec{\Psi} = \vec{\Psi} A, \quad (10)$$

$$A = R_{M-1} R_{M-2} \cdots R_1 Q_M. \quad (11)$$

この行列 R_i, Q_M は $(M+1)$ 次正方行列である。これに対して、パラメーター $a_M = 1$ と特殊化すると、パフ系の未知関数 $\Psi_0, \Psi_{j,i}$ ($1 \leq i \leq M, 1 \leq j \leq N$) のうち、 $\Psi_{j,M}$ だけが x_M に依存するようになる。 $\frac{\Psi_{j,1}}{\Psi_0} \cdots \frac{\Psi_{j,M-1}}{\Psi_0}$ を x_1, \dots, x_{M-1} にのみ依存する関数として、それぞれ $r_{j,1}, \dots, r_{j,M-1}$ とおくと、式(10)(11)は Ψ_0 と $\Psi_{j,M}$ だけの連立方程式として次のように表せる。 $\vec{\Psi} = [\Psi_0, \Psi_{1,M}, \Psi_{2,M}, \dots, \Psi_{N,M}]$, $z = x_M$ とおくと、

$$T_z \vec{\Psi} = \vec{\Psi} A = \vec{\Psi} X'_1 X'^{-1}_2 \cdots X'^{-1}_{2M-1} X'_{2M} D',$$

D' は対角行列、 $X'_i = X'_i(z, t) = \text{diag}[u_{i,1}, u_{i,2}, \dots, u_{i,N+1}] + \Lambda$ ($u'_{i,N+1} = \frac{c_i}{\prod_{j=1}^N u'_{i,j}}$) を表し、 $u'_{i,j}$ は $r_{j,i} (= \frac{\Psi_{j,i}}{\Psi_0})$ の有理関数で表される。 $t = x_{M-1}$ とおくと、方程式 $T_t \vec{\Psi} = \vec{\Psi} B$ も同様に求められる。これと(3)を見比べて、結果を得る(行列 B も同様)。

注. 2.1 定理2.1の $N = 1$ の場合について[4]に述べた。

参考文献

- [1] E. Heine, Über die Reihe..., *Reine Angew.Math.*, 32 (1846), 210–212.
- [2] E. Heine, Untersuchungen über die Reihe..., *Reine Angew.Math.*, 34 (1847), 285–328.
- [3] Tsuda, T., Hypergeometric solution of a certain polynomial hamiltonian system of isomonodromy type, *Quart. J. Math.*, 63 (2012), 489–505.
- [4] Park, K. A certain generalization of q -hypergeometric functions and their related monodromy preserving deformation, *Journal of Integrable Systems* 3 (2018), 1–14.